第５０回　前橋市水道事業等運営審議会　議事録

日時　令和７年７月２４日（木）午前１０時から午前１１時４０分まで

会場　前橋市水道局３階会議室

１　開会

　　山本経営企画課長

　　委員が９人のうち、８人出席しており、前橋市水道事業等運営審議会条例に定める会議の開催要件である過半数の委員の出席を満たしているため、今回の会議の成立が確認された。

２　議事

　　水道事業等運営審議会条例に基づき、田中会長を議長として議事を進行した。

　　議事録署名人は田中会長及び齋藤委員とすることが確認された。次の議事について、事務局が順次説明を行い、質疑応答を実施した。

(1) 答申後の経過報告について

(2) 市民説明会資料について

【質疑応答】

　**１　答申後の経過報告について**

　　（齋藤委員）

　　　市議会議員からの意見において、「汚水公費負担金の縮減については、市民説明になじまない」とあるが、水道料金改定時の市民説明会において、公費負担金について市民から質問が挙がっていることから、市民も関心があるのではないか。

（田中会長）

市民に対して、いかに分かりやすく説明するかが大事である。汚水公費負担金については、説明会で自ずと出てくる話であると思われる。

　　（事務局）

　　　汚水公費負担金について、説明しなくて良いという考えではない。審議会や市議会議員に対しては、詳細に説明をしたが、難しい内容でもあるため、市民説明会においては、公営企業会計として独立採算の考え方のもと、公費負担金を縮減していくという説明をしたいと考えている。

**２　市民説明会資料について**

　　（齋藤委員）

市民説明会資料は非常に分かりやすい内容となっているが、何点か意見を申し上げる。

Ｐ．２に「一般家庭への影響」とあるが、「影響」という言葉に悪い方向に向かうという印象がある。「影響」ではなく、「改定額例」や「負担例」といった表現が望ましいのではないか。

Ｐ．４タイトルに「これまでの取り組み」とあるが、水道局の経営努力が市民に伝わらないように感じる。この部分を「これまでの経営努力」とし、アピールした方が良いのではないか。

（田中会長）

水道局は民間企業ではないため、「経営努力」よりも「取り組み」の方が市民に馴染むのではないかと考える。

Ｐ．５について、これまでの取り組みが１枚にまとめられており、非常に分かりやすいと感じる。なお、吹き出しは、もう少し大きくした方が良いと感じる。

（齋藤委員）

年号の表記について、グラフ以外は、「Ｈ」や「Ｒ」ではなく、「平成」や「令和」と記載した方が市民には分かりやすいと感じる。

Ｐ．５及びＰ．６では、支出の削減や収入の確保について、水道局の努力が分かりやすく記載されていると感じる。

Ｐ．７の表現については、かみ砕いて理解することができなかった。「独立採算の経営に向けて、下水道使用料の改定が必要である」という主旨が伝わる文章に変えた方が良いのではないか。

（事務局）

年号の表記については、スライドのバランス等も考慮しながら検討する。

（田中会長）

Ｐ．１５で人口減少や水需要の減少といった背景を説明しているが、この部分を冒頭で説明した上で、現状の厳しい経営状況を説明した方が分かりやすいのではないか。スライドの順番を変えるとさらに分かりやすい資料になると思われる。

水道料金や下水道使用料の料金表をスマホで見られると良いのではないか。

（事務局）

条例改正後、料金表はＨＰにも掲載予定である。市民説明会の時点で、ＨＰの準備ができていれば、説明会資料に料金表の二次元バーコードの掲載を検討したい。

（齋藤委員）

Ｐ．１２の収益的収支という表現が分かりづらい。「収益で赤字が発生」といった表現の方が分かりやすいと感じる。また、Ｐ．１３において「収益（黒字）」とあるが、「利益（黒字）」の間違いではないか。全体的に言葉を整理していただきたい。

Ｐ．１８の委員構成において、「商工会議所」、「工科大学」、「㈱ベイシア」ではなく、「前橋商工会議所」、「前橋工科大学」、「株式会社ベイシア」といった表現が望ましいと思われる。また、「公募市民代表者」とあるが、「公募市民」で良いと思われる。

（田中会長）

　この点は参考にしてほしい。

（稲田副会長）

資料全体は非常によくできていると感じる。スライドの順番を変えることで、独立採算が出来なくなった背景がより分かりやすくなると感じる。

（岩上委員）

住民は、「自分自身にどんな影響があるのか」を一番気にすると思われる。Ｐ．２３及びＰ．２４で改定の影響が示されている点は、非常に分かりやすい。

また、先日発生した八潮市の下水道の陥没事故についても、市民の関心は高いと思われる。本市でも同様の事故が発生する可能性はあるかといった質問が出る可能性があるため、手元資料として準備しておいた方が良いと思われる。

（田中会長）

　以前の審議会で説明があったかと思うが、県内には直径２ｍ以上の管路はほとんどなかったと記憶している。八潮市のような事故にはならないと思うが、説明に盛り込むと良いと思われる。

（事務局）

　説明に盛り込む等、検討する。

（齋藤委員）

市長フォーラムでも、市民から下水道陥没事故が本市で発生する可能性はないかという主旨の質問が出ており、市民の関心は高いと思われる。

（設楽下水道整備課長）

八潮市の陥没事故は、軟弱な地盤に直径４．７ｍの管路が土被り１０ｍの位置に埋設されていた。本市に関しては、地盤が比較的強固で液状化のおそれがほぼなく、直径２ｍ以上の管路が土被りも数ｍの位置に埋設されているため、同様な事故の可能性は低い。なお、直径２ｍ以上の管路は、距離にすると約１７０ｍである。

（田中会長）

ちなみに、直径２ｍ以上の管路は、どこに埋設されているか。

（設楽下水道整備課長）

水質浄化センター付近に埋設されている。

（齋藤委員）

今のような説明をスライド１枚にまとめていただけると、市民も安心するのではないか。

（林委員）

Ｐ．１３及びＰ．１４で財源（貯金）が無くなったとあるが、なぜ貯金が無くなったのかを先に説明すると、さらに分かりやすくなると感じた。

（田中会長）

人口減少や水需要の減少が説明されているＰ．１５及びＰ．１６をイントロダクションで説明した方が良いかもしれない。

（清水委員）

Ｐ．７において、「２０年以上もの間、下水道使用料を据え置いてきた」とあるが、これはすごいことではないか。ガソリン価格や米価等と比較するグラフを入れてみてはどうか。

（事務局）

２０年間据え置いてきた事実を褒めていただくことはありがたいことだが、本来、使うべきではない財源を充てて、必要な財源が無くなっている一面もある。

繰越財源を確保しつつ、収益で黒字を確保できる使用料に改定するべきであった。しかし、収益が下がっているものの、繰越財源が数十億残っていたことから、収益を補填していた事実もある。このような点も踏まえて、資料への記載方法については検討したい。

（齋藤委員）

Ｐ．２５に「耐震化計画に基づき、計画的な耐震化を推進」とあるが、「耐震化計画」が市民には分かりづらい。管路や施設の耐震化といった具体的な表現が望ましいのではないか。

Ｐ．２６に財源（貯金）を増やすこと、経費回収率１００％を目指すことと記載があるが、具体的に何をするか伝わらないので、Ｐ．５及びＰ．６に記載されているような取組の継続その他汚水処理経費の圧縮を目指した取組及び事業の定期的な見直し等を実施していく旨等を具体的に記載してはどうか。

（田中会長）

Ｐ．２５については、管路や施設の耐震化といった具体的な表現があっても良いと思われる。

Ｐ．２６については、今後も値上げの可能性はあるものの、値上げという表現を避けるためにこのような表現となってしまうのではないか。

（事務局）

ご推察のとおりである。下水道使用料を２０年ぶりに改定するが、一度改定してしまえば、次の改定は２０年後ということではないと考えている。経営努力は引き続き行っていくが、４年間の財政計画の中で、適正な使用料をその都度検討していく必要があると考えている。

（田中会長）

次回の使用料改定については、インパクトが大きいため、市民説明会資料に記載するのではなく、事務局から口頭で説明することが望ましいと思われる。

（稲田委員）

Ｐ．２６において、独立採算制の原則や経費回収率について初めて触れられたが、Ｐ．１３で説明した方が良いのではないか。

（高山委員）

Ｐ．１３の資料が非常に重要である。２枚に分けても良いと感じた。また経費回収率についても早めに説明した方が良いのではないか。

（齋藤委員）

参考資料に経費回収率の他市比較を載せてみてはどうか。

また、本市の汚水処理人口普及率が９０％を超えている資料を載せてみてはどうか。

（田中会長）

事務局として、参考資料にどのような資料を追加するか、考えはあるか。

（事務局）

参考資料については、これまでの審議会資料から検討している。細かい数値を載せれば理解が進むというわけではないと考えており、今後検討を進めていきたい。

（齋藤委員）

Ｐ．２７の図を掲載した意図は何か。意図が分かるよう吹き出し等を入れてみてはどうか。

（事務局）

改定前後の使用料を示した図である。あくまで参考資料としての位置づけである。

（田中会長）

様々な意見が出たので、参考にしたうえで資料をブラッシュアップしてほしい。

　事務局からの事務連絡

次回の審議会の開催予定が１０月であることが伝えられた。

３　閉会